

Libro de Alexandre (XIV)

Translated by OTA Tsuyomasa

Abstract

The Libro de Alexandre is a great epic poem which consists of 10700 lines and was supposedly written in the first third of the thirteenth century. This poem is not an ordinary biography of Alexander the Great, because the story is interrupted by many diverse episodes like those of the Trojan war which took place about 1200 years B.C. according to the historians, and those of the Old Testament. Alexander the Great is a personage of the fourth century B.C. and this poem is written in the thirteenth century of A.D. So in this work by unknown author, perhaps a cleric, mixture of ages is seen everywhere and that is the most remarkable characteristic of this epic poem.

This work is written in the erudite form of cuaderna vía (four-fold way), style of which has been called mester de clerecía (scholars'art) as compared with mester de juglaría (minstrels'art).

This time translation is made from the strophe 2325 to the 2675, the last.

アレクサンダーの書 XIV

太田 強 正 訳

アレクサンダーの書は 13 世紀の最初の約 30 年の間に書かれたと推測される 10700 行からなる大叙事詩である。

これは 33 歳で早世したアレクサンダー大王の伝記であるが、普通の伝記とは異なり、大王が活躍した紀元前 4 世紀、トロヤ戦争が起こったと言われる紀元前約 1200 年、そしてこの叙事詩が書かれた紀元後 13 世紀の話が混然として描かれている。

作者は無名の聖職者であろうと言われているが、Gautier de Chatillon の *Alexandreis* を底本として、その他の伝記、伝承を基にこの叙事詩を書いたようである。

作品はメステル・デ・クレレシーア (*mester de clerecía*) と呼ばれるもので、中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派のものである。これは文字の読み書きのできない吟遊詩人 (*juglares*) によるメステル・デ・フグラリーア (*mester de juglaría*) と対をなすものである。

形式はクアデルナ・ビーア (*cuaderna vía*) と呼ばれる 1 行 14 音節同音韻 4 行詩である。

今回は第 2497 連から最終の第 2675 連までを掲載する。

訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補わなければならない箇所があった。

人名・地名などの固有名詞は原則、原文に従いスペイン語読みとし、日本で普通用いられているものについてはそれに従った。

翻訳に当たっては現代スペイン語訳の他、英訳を参照した。また部分訳ではあるが日本語訳も参考にした。

2497 王は勇敢な鳥であるグリフォン²⁶⁰⁾を二羽捕らえさせました
それらを塩づけの新鮮な肉で馴らし
良質な肉で非常に贅沢に育てました
がっしりして、非常に勇敢になるまで

2498 王は良くなめした皮でマントを作らせました
それは長々と寝そべった人間をすっぽり包むような物でした
それをしっかりした糸でグリフォンに結びました
重い人間でもそれを破くことはできなかったでしょう

2499 王はそれらから三日間食料を取り上げさせました
食欲が出るように
その間王は皮の中に自分を縫い込ませました
見えるように顔を出して

2500 王は棒の先に肉をつけました
グリフォンたちの真ん中に、しかしたっぷり距離をおいて
グリフォンたちは肉を取るためにすぐに飛び上がりました
エサにありつこうとしましたが、まったく無駄でした

2501 グリフォンたちが飛び上がっただけ、王も飛び上がりました

アレクサンダーは必ず飛び上がり
エサを上げたり、下げたりしました
王が望んだ所にグリフォンたちは行くようになりました

- 2502 溜まった飢えがグリフォンたちを悩ませていました
彼らは食べるために争っていましたが、どうにもなりませんで
した
彼らは常に飛び上がって日を過ごしていました
王は野営地を変えていました

- 2503 王は飛び上がろうするときに、肉も持ち上げ
降りようとするときに、肉を下ろしていました
肉が見える所に、グリフォンたちは行きました
—私は彼らを責めません、飢えは耐え難い物ですから—

- 2504 王は雲に登ることさえできました
自分のいるところから下に山や谷を見ていました
そしてすべての川が大海に流れ込むのを見ていました
しかしその広がりには想像もできませんでした

- 2505 王はどの港で海が狭まっているのか
多くの場所で大きな危険があり
多くのガレー船が岩にぶつかり
そして他の船が港に入って食事を用意するのを見ていました

- 2506 王はアフリカ全土がどうなっているのか計測しました

どの部分から入るのがよりやさしいのか
すぐにシリアから入るのが一番良い通路だとわかりました
というのは出口が大きく、入り口が広がったからです

- 2507 王が見たものすべてについて語るのは長くなるでしょう
1日で半分も行かないでしょう
しかし王は1時間でカバーできました
すべての修道院長²⁶¹⁾も想像できないことでしょう

- 2508 私たちはそのことをよく読みます、書が言っています
その人はその人物像の故に世界と呼ばれていると
その功を考え、心に描きたいと思う者は
必ずそれが道理だと理解するでしょう

- 2509 アジアは私の考えでは体で
太陽と月は目で東から生れます
腕は全能の王の十字架で
彼は人々の救いのためにアジアで死にました²⁶²⁾

- 2510 左の脇腹から下がっている脚は
それに描かれたアフリカの王国で
全域を背教の民モーロ人が支配しています
彼らは明らかな裏切り者マホメットに祈っています²⁶³⁾

- 2511 右の脚によってヨーロッパは書かれています
これはもっとも信者の多い信仰であるカトリックで

教皇の右手で祝福されています
ここにはペトロとパウロが住んでいます²⁶³⁾

2512 肉は厚く重い地です
海はそれを囲っている皮です
血管は地を温暖にしている川で
右に左に大きく蛇行しています

2513 骨は丘を持ち上げる岩で
頭の毛は^{まきば}牧場の草です
ここでは多くの害獣が育っています
それらは私たちの罪の罰の故です

2514 王がその地を良く視察して
彼の望み通りに満足すると
グリフォンたちにエサを下げて与え、連れ帰り
わずかの時間で臣下たちの所に戻りました

2515 王を導こうとした運は
彼がこの世から去る前に
世界の権力を手中に納めさせようとしてしました
しかしそれはほんのわずかしかなかったませんでした

2516 王の名声は世界に大きく鳴り響き
全アフリカは大きな恐怖に陥れられました
ヨーロッパは大きな過ちを犯した思っていました

というのは服従を全うしなかったからです

2517 皆合意しました ―それは創造主は喜ばせました―

ギリシャの王を君主として受け入れることを

人々は直ちに良き皇帝に送りました

貢物と敬意と恐れをあかしを

2518 人々は王に貢物と多くの願い事をし

各々の地の際立った贈り物をしました

これらを帯同した者たちは誠実な男たちで

分別のある非常に雄弁な者たちでした

2519 モロッコは王にその地の兜を送りました

そこには忠実な服従と書かれていました

アレクサンダー王は他のことは欲しなかったからです

わずかな印で表される支配権以外は

2520 イスパニアは服従を申し出て

貢物として純血種の子馬を送りました

というのは心の広い王はこのように

自分に敬意を払う者からはわずかな貢物を取るだけでしたから

2521 フランスはこれによって恥ずかしめられたとは思いませんでした

王によく細工された覆いに包んだ盾を送りました

ドイツは、文書と共に ―よく合意のとれたものでした―

王に貢物として素晴らしい剣を送りました

2522 シシリアの君主²⁶⁴⁾は 一神が彼を祝福してくださいように
—

王に貢物として豪華な鎧を送りました

もっと遅れて来た者たちは 一私は本当のことを言っていると思
います—

過ちか敵対行為をしでかしたと思っていました

2523 私たちが述べたこれらの五つの王国の他
示されていない王国についても私たちは理解しなければなりませ
ん

すべてがこのようにすると決めたのです

王の評判にただただ恐れを抱いたのです

2524 多くの地があり 一数えることはできないでしょう—
このような貢物と共に多くの騎士がくり出しました
このように大勢のすごい行列は今までなかったので
これ以上の人出になったことはありませんでした

2525 人々は貢物と共に、より信じられるように
皆 abc 順に分けて閉じられた書状を持って行きました
港に来た人々が非常に多かったので
船は満杯になりました

2526 人々はバビロニアに着きました
街は大きかったけれど、あまり宿はありませんでした
老いも若きも女たちはおどろきました

こんな奇妙な人々が集まっているのを見て

2527 幸運な王のところに知らせが届きました
一つになった世界が彼を探していて
皆が喜んで彼に敬意を表し
貢物を捧げ、服従を誓おうととしていると

2528 王はその知らせにとっても喜び
直ちに騎兵隊を動かししました
時も日も心配していませんでした
全支配権を手に入れるときの

2529 王は非常に急いでバビロニアに向かいました
大きな栄光と大きな幸運を手にするために
欲が彼に翼と熱を与えていました
彼は自然がどんな罟を仕掛けるのか知りませんでした

2530 完璧な肉体のアレクサンダー王よ
あなたは大きな栄光を受けようとしているが、騙されている
あなたの運とあなたの王位は
すぐに散ってしまう百合の花のようだ

2531 旅によるこの渴きがあなたを苦しめる
邪悪な一杯のぶどう酒がすべてを終わりにする
あなたの家来のアンティパテルがバビロニアに来て以来
邪悪な隣人ホバス²⁶⁵⁾と共にあなたの死をいつも画策している

- 2532 あなたが（幸運の）車の頂に登ると
1日もたたずに引きずり下ろされ
あなたは車と地面の間に落ちるでしょう
そしてあなたがダリウスに見たことがあなたに起こるでしょう
- 2533 王はバビロンの町の近くに来ると
地域の全住民が迎えに出ました
無数の人々が集まりました
さながらヨシャファトの谷²⁶⁶⁾ のようでした
- 2534 人々は道を枝と花で満たしました
白や赤や他の色の花で
歌がたくさん、歌い手もたくさんいました
楽器もたくさん、奏者もたくさんいました
- 2535 すべての服装は一様ではありませんでした
多くの地方から来た人々は多くの（巡礼者の）貝殻²⁶⁷⁾ を持って
いました
王は急いで道を進めませんでした
王のあぶみ²⁶⁸⁾ に口づけすることが寄って来る者たちを喜ばせて
いました
- 2536 各々が自分の言葉で創造主に言っていました
《神が賛美されますように、このような君主を我々に与えてくだ
さったのだから》
王を愛する者たちはこれでとても喜んでいました

しかし裏切り者は考えを変えていませんでした

- 2537 王は町に入り、宿を探しに行きました
—もし入らなければ、ほとんど何も失わなかったでしょう—
しかし第六時をずっと過ぎて夕方になりました
人々が皆町に入る前に

- 2538 翌朝市場の外で
良き王は総会議を開くよう命じ
王座を高い台座の上に据えるよう命じました
豪華な絹織物の下の囲われた場所に

- 2539 私たちが貢物を受け取りに入る前に
私はあなた達に王の天幕の美しさについて話したい
私の理解に従って、それを説明したい
よりうまくできる人がいたら、私は感謝したい

- 2540 天幕は広く、丸くそしてよく細工がされていました
二千人の騎士をゆったり留めることができたでしょう
巨匠アペレスがそれを立案しました
こんなに念を入れた仕事は他の人にはできなかったでしょう

- 2541 天幕の生地は非常に素晴らしいもので
正絹の赤い布でした
それは均一に織られていたので
日がさすと鏡のように輝きました

- 2542 柱は巧みに細工された象牙で
周囲が図られた小さなかけらでできていました
それはしっかりとまっすぐに据えられていたの
人はどこに継ぎ目があるのか分からなかったでしょう
- 2543 巨匠はそれを上から下まで
皆良く均整の取れた非常に高価な石で飾りました
豪華な石のうちどれも欠けていませんでした
最も小さなものでも非常に値の張るものでした
- 2544 柱は天辺に上質の金の三つのリングを付けていました
どれも非常に価値のある物でした
ユダヤ人もモーロ人もそんなに高価な物を見たことはありません
でした
世の中にそのような物があるとすれば、それはポロが知っている
に違いありません
- 2545 私は（天幕の）綱に時間を割きたくありません
というのはそれらには多くの時間が必要でしょうから
それらは上質の絹でできていて、大変な価値があるはずのもので
した
そしてそれらを束ねる縄は金でできていました
- 2546 綱が引っ張って支えている主要な杭が
他のすべての天幕を支えていました
お互いに全然似たところがなく

がっしりした男達のようにがっしりしていました

- 2547 窓を引っ張っている他の種類の杭は
すべての中で最良の物で姉妹のように見えました
すべて金で、とても美しい作りでした
すべてが天辺にすばらしいリングの印を付けていました

- 2548 天幕の中に入ってみたいのですが
細々した事には時間を取られたくありません
そこで我々が休憩する時間はたっぷりあります
我々の食事が用意される間に

- 2549 天幕は建てられた時にはすばらしく見えました
下は丸く、周囲は四角で
上から下までよく歴史が記録されており
何が起こったのか、あるいはいつなどと

- 2550 天井に天国が描かれていて
そこには一面に小天使がいました
しかし悪魔が追いやられた所は
すべてが荒地で、貧しく、恥ずべき所でした

- 2551 神がそこを満たすために人間を創造していました
悪魔は嫉妬からそれを盗みました
その盗みによって天使達はとても苦しみました
人間は裁かれ、死と苦しみが与えられました

- 2552 これらの物語の近く、端っこに近い所で
巨人たちが非常に高価な塔を建てていました
しかし神は彼らに非常な混乱をもたらしたので
皆破滅することになりました²⁶⁹⁾
- 2553 大洪水の波が非常に高く上り
ティブリオ山²⁷⁰⁾の頂上をほとんど覆いそうになりました
ノワはぶどう酒をのんでいて、それを我慢できませんでした
ノワはだらしなく横たわり、それを覆い隠そうとしました²⁷¹⁾
- 2554 入り口のすぐ傍に
年の自然がすべて描かれていました
月々がその日々と共に、またその月の位相が
各々どんな仕事が当てがわれているかが
- 2555 ヤヌス²⁷²⁾が二方向を見ていました
干し肉に囲まれて、蔓を運びながら
肥えた雌鳥を持っていて、それらを焼いていました
止まり木からソーセージをぶら下げて
- 2556 二月が手を温めていました
あるいは日が照ったり、あるいは雪が降ったりしていました
二月が夏と冬を区別して行きました
一番短いので、不平を言っていました
- 2557 三月はブドウ畑を耕すのにとても急いでいました

剪定と掘り返しを急いでいました
すでに鳥や動物を発情させ
昼と夜を同じ長さにしていました

2558 四月は戦争に行くために軍を出していました
というのは刈り取る大きな城があったからです
ぶどう酒を作るためにぶどう畑を作っていました
穀類や草を育て、日々を長くしていました

2559 五月は花で冠されていました
いろいろな色で野を飾り
春の歌を合唱し、愛の歌を歌っていました
農夫の蒔いた穀類が穂を出していました

2560 六月は穀類と牧場^{まきば}を熟させていました
周りに刈り取られた多くの大麦の穀粒があり
熟したサクランボをつけた桜の木がありました
日々が一番長くなりました

2561 七月は刈り取り人を雇っていました
汗が顔を勢いよく流れ
蚊が獣を噛んで悩ませていました
ぶどう酒を苦い味に変えていました

2562 八月は脱穀場で穀物を脱穀し
それを飛ばして粒を取っていました

熟していないぶどうを本当のぶどうにしていました
 その時秋が最初の叙階²⁷³⁾ をしていました

2563 九月が棒を持ってくるみの木を揺すっていました
 桶を目張りし、ヤナギを剪定していました
 剪定ばさみでぶどうの木を摘み
 鳥をイチジクの木に近づけないようにしていました

2564 十月がぶどう酒の移し替えをして
 すでに発酵しているぶどう酒を試していました
 新たに自分の道具を点検して
 冬が来るので、種まきに行きました

2565 十一月が豚にどんぐりを揺すってやりました
 一櫛の木から落ちたのを、盆にのせて運んでいました—
 学生がろうそくの火で夜なべを始めています
 夜が長く、昼がさほど長くないので

2566 十二月が午前中に豚を殺していました
 食欲を抑えるために肝臓を昼食に食べていました
 朝方はいつも濃い霧がたちこめていました
 この季節には毎日のことですから

2567 良い画家によって描かれた主な物語のうち
 一つは決然とした戦士ヘラクレスのものであり
 素晴らしい出来の二番目の布に描かれていました

もう一つは色男パリスのものでした

2568 ヘラクレスはまだ少年になっていない幼児でした
 まだ目がほとんど開いてなく、小さなゆりかごに横たわっていました
 まま母には強い子だと分かりました
 まま母は母親に息子の喪の悲しみを見せてやりたかったでしょう²⁷⁴⁾

2569 まま母は赤子を絞め殺そうとする二匹の蛇を送り込みました
 赤子は自分を殺そうとするへびを察知して
 各々の手で掴み
 蛇を二匹とも絞め殺すと、まま母は苦悩しました

2570 それから赤子は育っていき、自分を勇壮だと感じました
 多くの戦いを制し、多くの民を征服しました
 アンタエウス²⁷⁵⁾を非常に屈辱的に倒し
 それから西方に自分の柱²⁷⁶⁾を建てました

2571 パリスがヘレナをかどわかし、大不倫を働きました
 人々は彼をトロヤに受け入れましたが、それがトロヤの不幸となりました
 ギリシャ人たちはそのような大きな恥辱に耐えることを欲せず
 皆詩編に復讐を誓いました²⁷⁷⁾

2572 ギリシャ人たちは占星術によってトロヤを包囲に来ました

中にいる者たちは断固として、準備ができていました
双方とも圧迫され、苦しめられていました
しかし両軍とも頑張っていました

- 2573 包囲が十年経っていました
エクトルが死にました —アキレスが殺したのです—
しかし町はまだ持ちこたえていました
というのはまだ定められた時が来ていなかったからです

- 2574 アキレスはまだ最後を迎えていませんでした
それでギリシャ人たちは（木の）馬を用意することにしました
彼らは大いなる策略を持ってトロヤを征服しようとしていました
そして町全体を地に倒すことになりました

- 2575 アレクサンダー王がこれらの武勲を見ると
胸が高鳴り、大きな勇気が湧いてきました
自分の戦いは取るに足らないものだと言いました
それを超えるものでなければ死んでもいい

- 2576 名誉ある天幕の三番目の布には
注のついた世界地図が書いてありました
それを作った者は地をよく覚えていました
まるで自分の足で歩いたかのように

- 2577 海は真ん中に囲まれた地を持っていました
海に対して地は似たところがありませんでした

そこは人が住んでいない荒地でしたが
牧草が生えいる所も、耕作地もありました

2578 世界の三つの部分はしっかり分けられていました
アジアは他の部分を騙していました
ヨーロッパとアフリカは隅に追いやられていましたから
娘たちのはずですが、義理の娘たちのようでした

2579 巨匠はこのように繊細で思慮深い人でした
彼は町も素晴らしい城も忘れませんでした
王国もどの国も忘れませんでした
川も丘も荒地も耕作地も

2580 タホ川、トゥエロ川、エプロ川、この三つが主な川です
コゴリヤ²⁷⁸⁾とモンカヨは二つの高い山です
スペインにはこれら五つの標識があります
多くの良き城と土着の町と共に

2581 あなたたちはブルゴスやパンブローナよりもっと良い何を望むだ
ろうか
ソリアやとトレド、レオンやリスボンよりもっと良い何を
ガスコーニュをガロンヌ川が流れている
ここにバヨンヌに近いボルドーがある

2582 パリの町はフランスの中ほどにありました
全聖職者の非常に多くが住んでいました

非常に豊かな町トゥールはロワール川河畔にありました
さらに前方を水量豊かなローヌ川が流れていました

2583 ロンバルディアにパビアとミラノがありました
—しかし私たちはブルゴーニュとウィーンを置き去りにしました
ボローニャはすべての町の中で礼儀正しく見えます
法律と政令がその泉です

2584 トスカナ地方の端を通してロンバルディアに至ります
ティベル川河畔にローマがありました
そこにその最初の建設者（レムス）が眠っていました
彼は自身の兄（ロムルス）に首を切られました²⁷⁹⁾

2585 もし私達がすべての地に言及したいと望むなら
それには他のこのような大きな本が必要でしょう
しかし私はこのことを急いで終わらせたい
というのは私はもう疲れていて、休みたいから

2586 アジアの城についてはそのすべての土地と共に
—良く思い出していただけるなら、私達はすでに話しました—
種族、家柄、時代、年齢
すべてがその特徴と共にその中（世界地図）にありました

2587 アレクサンダーはその中に知ることができました
どれだけ征服したのか、どれだけまだ征服しなければならないの
か

反旗を翻したり覆い隠したりできる地はありませんでした
王が探して戦い取れないような地は

2588 巨匠は四番めの壁に描きました

良き王の武勲を、それを上手に描くことができました
統治し始めたのは何歳の時からだったのか
どのようにしてニコラオ²⁸⁰⁾に頭を下げさせることができたのか

2589 裏切り者のパウサニ阿斯にどのような死を与えさせたのか

彼は父王フィリッポスを裏切りによって殺したのです
どのようにテーベを破壊したのか、そしてどのような理由で
どのようにアテネが哀れみと許しを得たのか

2590 王がどのようにダリウスを探しにアジアに渡ったのか

どのようにフリギアにあるトロヤを見つけたのか
巨匠はテュロスに対する戦いを省こうとしませんでした
王がどのようにして自分の恥を濯ぐことができたのか

2591 野戦となったメモノン²⁸¹⁾との戦い

それは三日続きました ―大きな戦闘でした―
どのように王がユダヤ人達と協定を結んだのか
どのようにしてゴルディウス王の結び目を解いたのか

2592 良き皇帝ダリウスとの戦い

そこで君主のために死んだ者達は誰だったのか
各人どのように死んだのか、殺した者は誰なのか

ダリウスの息子達と妻の捕縛

- 2593 偉大な皇后がどのように葬られたのか
そしてその墓がどのように描かれたのか
王がどのようにダリウスを二回目に破ったのか
バビロニアがいかに征服され、再興されたのか
- 2594 ダリウスに対する裏切り、いかに彼は裏切られて死んだのか
どのように葬られたのか、そしてベッススどのようにあざけられたのか
王の結婚はもっと簡単に描かれました
これで天幕のスペースは埋められました
- 2595 私は天幕について仰々しく語りたくありません
—私は一日中そのことを話したくないのです—
それがどれだけの価値があるのか正確に言うことはできないでしょう
しかしアルメリア²⁸²⁾の富ではそれを買うことはできないでしょう
- 2596 良き王が天幕に入ると
非常に名誉ある場所である椅子に腰を下ろし
彼に送ってきた貢ぎ物を持ってきて
添えられている書簡を会議で読むように命じました
- 2597 書簡が開けられ、読まれ

敬意が表され、貢ぎ物が受け取られると
王は神に向かって目をあげ、手を広げて
美しく心地良い言葉を口にしました

- 2598 《比類なき王の中の王よ、
その手の中にあります、取り去るも与えるも
持ち上げるも、引き下ろすも、傷つけるも、治すも
主よ、あなたが誉め讃えられますように、そうあるべきなのです
から ²⁸³⁾

- 2599 主よ、私は常にあなたを讃え、賞賛すべきです
あなたは私をこんなに良く導き、私の目的を成就させて下さいま
したから
私がこうするのは、主よ、恐れからで、他の制裁のためではあり
ません
すべての地が私の手に接吻しにやって来ます

- 2600 地もあなたに同じように感謝すべきでした
というのは地は私の力がどれほどのものか試さなかったからです
というのはもし他の戦いに巻き込まれたら
持ちこたえられないでしょうから

- 2601 事がすっかり済むと
昼が過ぎて、第九時 ²⁸⁴⁾ になっていました
世界の皇帝は栄えある行列で
「我ら汝神を讃えまつる」 ²⁸⁵⁾ と共に野営地に帰りました

- 2602 邪悪で危険な夜が来て
目の効かない暗い朝が明けました
それは世界がからその貴重な花を奪いに来ました
その花は百合やバラよりも素晴らしいものでした
- 2603 空の星は昼を遅らせ
のろのろ進み、長い休息をとりました
明けの明星は出るのが遅く、目を覚ますことができませんでした
他の星はそれをほとんど起こすことができませんでした
- 2604 その夜人々は見ました ―私たちは書物で良く読みますが―
空の星が互いに争うのを
というのは王が生まれる時、強力な印が出たように
死に際しても同様のものが現れるのを人々は見たのです
- 2605 悪魔の手下で裏切り者のアンティパテルが
その夜夕食の後で決めました
翌日アレクサンダーが食事の後
最初の一飲みで毒殺されると
- 2606 太陽が悲しげに、痛々しく昇りました
できるなら喜んで遅れて昇ったことでしょう
自然がそうさせ、太陽はその命令に従ったのです
黒く不吉な日が明けました
- 2607 王はその誇りと上機嫌で

早く食事の用意をするよう命じました
新しい臣下達を客として迎えたかったのです
各人から彼らの習慣を聞くことを望んでいました

2608 昼前に食事が用意されました
たっぷり香水の滲みた非常に清潔な宮殿で
民がやって来て定められた順で着席しました
王は決まり通り皆の上座に

2609 王はすべてに非常に心を込めました
各々からそのすべての生活習慣を聞き
終わると自分の意見を述べました
スペイン人が一番行いが優れていると²⁸⁶⁾

2610 生まれてくるべきではなかった裏切り者のホバス²⁸⁷⁾が
王に仕える中で抜きん出ていました
他のすべての大臣に優り
アレクサンダーも非常に喜ぶほどでした

2611 夜の不幸によって、ホバスが取ることになりました
王が常々飲んでいる杯を
彼は幸運にもそれを握ることになり
彼はそれを放そうとも、他のものに持たせようとも決してしませんでした

2612 眠くなる時間が来ると

というのは彼らは話に日の大部分を使ったので
王はホバスにぶどう酒を持ってくるように命じました
それはその裏切り者を喜ばせ、彼は喜んで従いました

- 2613 ホバスは杯をよく洗い、ぶどう酒で満たし
その中にできるだけ毒を混ぜました
亜麻布の上に緋色の衣装をまとい
跪いてその杯を王に差し出しました
- 2614 その時が来ました —他でもありません—
(衰えた) 力が王の頭を傾げさせました
王は杯を取りました —それを取るべきではありませんでした—
王の最後が来ました、彼は飲み始めたのです
- 2615 王が唇から杯を離そうとするや
すぐに痛みを感じ、彼を捕らえました
王は吐くために羽を要求しました
というのは吐くことができれば治ると思ったからでした
- 2616 その裏切り者は、魂が悪魔に憑かれ
これを予期して、羽に毒を塗っておいたのです
そして悪意に満ちてそれを王に手渡しました
その悪人は王に刀で切りつけることもできたでしょう
- 2617 王は吐こうとして羽を口の中に入れました
これよりひどい火が彼の体に入ることはなかったでしょう

血管にまで届いた毒は
それを回復させる代わりに、もっとひどくしました

2618 そのようなことをした者は呪われるように
そのような者の体に宿る魂は呪われるように
そのようなことを喜ぶ者は呪われるように
神がその者に絶対解けない縄を駆けるように

2619 毒はすぐに効果を表し
体の血管を支配していききました
魂が体の中で縮んでいき
記憶が恐ろしく無くなっていききました

2620 神が望まなかったので、何も彼を助けることができませんでした
一人の医者も彼を救うことができませんでした
良き男は事態を理解し
自分を外に出して、野に置くように命じました

2621 家来たちの悲しみは大変なものでした
彼の臣下は皆非常に心配していました
怒りが心に達して
彼らは今までこのような痛みを感じたことはありませんでした

2622 王は苦しんでいましたが、頑張りました
寝台で身を起こし
皆に牧場の草の上に腰を下ろすように命じ

彼らに素晴らしい訓示をしました

2623 《私の周りにいる親類、友たちよ

私はお前たちを愛し、大切に思う、お前たちはそれに値するのだから

お前たちのおかげで私は帝国を獲得し、お前たちは私のためにそれを支えてくれている

お前たちは私に約束したことを果たした

2624 お前たちは人間達とそして獣達と戦って

決して負けなかった、それ故神が賛美されますように

お前達は王を導いた

母から生まれた何者も到達しなかった所に

2625 お前達を虐げた者達をお前達は虐げた

お前達に反旗を翻した者達を、お前達は打ち破った

お前達は他の者達から利益を得た

貢物や賞賛や書面による約束

2626 創造主とお前達の汗に感謝

お前達は全世界の頭であり主人だ

今まででお前達は最高だ

このような戦士達は今までもこれからもいないだろう

2627 私が見て以来、私の時代には

全世界が我々のものだったということを

それから今死に際して それは確かなことだが
それは全然たいしたことではない

2628 むしろ神が私を大いに愛してくれたと思う
私にその力で名誉を与えてくれたのだから
それでもっと大きな世界へ私が行くことを望んでおられる
私が悲しみや不満を抱く前に

2629 一瞬で物事は変わるものである
軽快な馬がつかまずいたりする
ただ一つの恥でも
私のすべての名誉が無になってしまうだろう

2630 名声があるうちに死ぬ者は
幸いであると賢人達は言っている
傾いてくるとすぐに倒され
苦勞がすべて川下に流される

2631 私は天の王に大々的に迎えられるだろう
私を迎えると、彼は自分が守られていると思うだろう
私は彼の宮廷で名誉を与えられ、仕えられるだろう
皆が私を褒め讃えるだろう、私は破れなかったので

2632 一方私は勇気と満足を得る
皆が私のために喪に服し悲しんでくれるだろう
皆がそのために粗衣をまとい

私の事を話す時、慰めを得るだろう

2633 最後に故郷に帰ると

人々は彼らに知らせを求め、彼らはこれらの事を話すだろう

人々は喪に服し、涙が新たにされるだろう

すると皆が言うだろう、“主よあなたは私たちを見捨てられた！”

2634 私は皆に遺言を残したい

後に争うことがないように

なぜならお前たちが取り決めを結ぶことなどできないだろうことを知っているから

お前たちは間もなく争うことになるかもしれない

2635 私はお前たちという間に私の王国を分けたい

ギリシャをペルディガスに与える、それが良い引き渡しだと思うから

母を彼に託する、私の信じる通り彼女に仕えるように
エジプトの王国をプトレマイオスに与える

2636 しかし私はこの事すべてにおいて条件をつける

もし私のロクサナから男の子が生まれたら

王国はその子のものになると、それが道理なのだから
これに従わない者は大きな裏切りを犯すことになるだろう

2637 もし女の子だったら結婚させるように

皆が彼女に従い、その命令を守るように
私の書記のシメオンがこのように取りはからうよう
そして私のすべての遺言を書き留めておくように

- 2638 さらに、彼が私に仕えてくれた故に
彼に大きな素晴らしい王国カパドキアを与える
兄のフェリポが忘れられたと思わないように
彼をペンタポリス²⁸⁸⁾に選んでおいた
- 2639 アンティゴノスにリビアとパンフィリアを与える
さらに友情から彼に全フリギアを与える
私の師アンティパテルには全キリキア²⁸⁹⁾を
ホバスとカッサンデル²⁹⁰⁾にはナイル川までを与える
- 2640 これとは別に、同等の位の他の者たちは
自分の意志にしたがって主人を選ぶように
メネアゲル²⁹¹⁾には遺産としてシリアを与える
ポント²⁹²⁾における権限をリマクス²⁹³⁾に与える
- 2641 もう一人のプトレマイオス、つまり小プトレマイオス²⁹⁴⁾と呼ば
れている者には
大シリア²⁹⁵⁾を、そこの君主となるように、与える
バビロニアとその周辺の地すべては
皆がニカノル²⁹⁶⁾を王として尊重するを命じる
- 2642 進んで降伏した他のすべての地は

それらを以前のように生きるように解き放つ
私に対して非常に良く持ちこたえたので
彼らは私に彼らに対して情けをかける大きな責務を課した

2643 私は私の墓に百タラント²⁹⁷⁾の金を置く
人々はそこから十分にすべての支払いをすることができる
私は司祭たちそれから修道院に
純金五百の倍を遺す²⁹⁸⁾

2644 私はアレクサンドリアに私の墓を持ちたい
私がエジプトに建設した極めて富んだ町に
私はプトレマイオスがそれを管理してくれると思う
彼はそうできれば自分は幸運だと思うように

2645 王はこうするうちに言葉が出なくなり
鼻が細くなり、舌が腫れ上がりました
彼は臣下に言いました：《もう分かるだろう、
私は世を去り、お前たちを神に委ねる》

2646 王は枕に頭をもたせかけました
—悲しまなかった人はいないでしょう—
王は体を寝台から床に移すように命じました
というのは釣り針がもう魂を引っ掛けていたので

2647 魂はその時をやり過ごすことはできませんでした
神の命令から逃れることはできなかったのです

魂は住んでいた肉体を離れ

あなたたちが想像するように肉体が残ったのです

2648 喜び²⁹⁹⁾ が叫びと嘆きに変わりました

《ご主人様—ある者たちが言いました—誰がこのような悲しみを
見たでしょう

私たちは皆あなたを身を守る服としてきました

ご主人様、私たちをこのように苦しめた者が呪われますように》

2649 《ご主人様！ —と他の者たちは言いました—、我々はどこに行
ったら助かるのでしょうか？

あなたを失ったら、我々は死んだほうがましでしょう！

ご主人様、今こそあなたが生きる時でした

世界中があなたに仕えようとしている時に！》

2650 《ご主人様！ —とまた他の者たちが言いました—、今我々はど
うしたらいいでしょう？：

ヨーロッパへ帰ることはあなたなしではできないでしょう！

ご主人様、あなたの家来たちは今日分裂するでしょう！：

この世があるかぎり、我々が一緒になることはないでしょう！》

2651 別の隅から人々が言いました：《ああ、皇帝陛下！、創造主はな
ぜこのようなことを被ることを望んだのでしょうか、

邪悪な裏切り者にこのような大きな力を与えて、

またこのように親切なご君主のこんなに多くの孤児を作ってま
で？》

2652 《ご主人様—とまた他の者たちが言いました—、あのような待ち伏せはひどいものでした！

あなたの全家臣があなたを助けることができませんでした

あなたの全臣下が悲しみに暮れています！：

人はこんなひどい惨事を経験したことはありません！》

2653 貢物を持って来た良き男たちが言いました：

《ご主人様、あなたにひどいことをした者たちすべてが盲人になりますように！

我々を選んだ人たちが我々に聞いてきたら、

彼らが我々に言ったことについて何と答えましょう？

2654 ご主人様、我々が彼らにもたらすこれらの知らせによって

我々は褒美ももらわないし、感謝もされないでしょう

こんなに運のない人間を、ご主人様、我々は知りません

昨日あなたを得て、今日は失うのですから！

2655 今日という日は、ご主人様、明けるべきではなかったのです

我々すべてにこんなに良い父を失わせるのですから！

ご主人様、あなたが持っていた幸運は

我々を混乱させるためにあなたを守ってくれませんでした！

2656 我々はあなたの宮廷に喜び満足してやって来ました！

そしてそこから悲しみ落胆して去ることになります！

ご主人、我々はひどい死に方をし、顧みられません！

悪い時に我々の罪が我々を襲いました！

2657 ご主人様、あなたが死ぬことによって、あなたはもっと多くの人
を殺したことになります
あなたの生きている時にあなたやあなたの
臣下が殺した人よりも！
ご主人様、すべての地があなたの死に悲嘆に暮れています
皆あなたに喜び、満足していましたから！》

2658 町中に大きな叫びが広がりました
ある者は《父上！》と言い、他の者は、《ああ、ご主人様！》と
言いました
またある者は《王様！》と言い、また他の者は《皇帝陛下！》と
言いました
皆大人も、子供も非常に悲しみました

2659 特にロクサナは打ちひしがれ
王の足元にうずくまって
王を抱きしめ、呆然としていました
顔じゅう涙で濡れていました

2660 彼女は頭を上げることはできませんでしたが
明らかに王に接吻したい風でした
人々は彼女を王の体から引き離すことができませんでしたが
彼女を責めることはできないと思いました

2661 《ご主人様—と婦人たちが言いました—、私たちは不運です
孤独で、助け也没有せんから！

私たちは支払いを受ける騎士ではありません！
私たちは不幸者として生きなければならないでしょう！

- 2662 ご主人様、あなたはただあなたの善良さのゆえに私たちを尊んで
くださいました！
私たちを哀れみを持ってみてください！
ご主人様、人にこんなに大きな慈悲があったことはありませんで
した
囚われの身の女たちをこのように公平に扱ってください！》³⁰⁰⁾

- 2663 泣くのはやめましょう、過ぎたことですから
私は最後まで行くためにはしょっていきたい
私は悲しみのため心が乱れています
努めても、何も言うことができません

- 2664 我らの主なる神の書が
羊飼いのいない羊たちは散り散りになると言っているように³⁰¹⁾
アレクサンダーの家臣の間に不和と悪しき熱意が入り込みました
各々が自分の名誉を得ようとしていました

- 2665 プトレマイオスは何が問題なのか分かりました
彼らが動揺していることがはっきり見て取れました
王を彼らが一緒にいる間に葬らせました
というのはまだ大きな墓ができていなかったのだ

- 2666 王は長い間バビリニアに葬られていました

墓が完成するまで
しかし最後にアレクサンドリアに移され
プトレマイオスが王を立派な入れました

2667 アレクサンドリアはそのような宝物を得ることができなかったで
しょう

金や銀でもそのようなものを買うことはできなかったでしょう
もし王がこのような世俗的な生活を送った異教徒でなかったら
世界中が彼を崇拝しに行くべきでしょう

2668 肉は死んでも、それが自然なので
名声は死なず、今日もまだ続いている
名声のうちに死ぬ者は幸いである
というのは学者たちがすぐに書にしてくれるから

2669 栄光の王である創造主のおかげで
生きて、完璧な勝利のうちに支配する者
その物語を、皆さん、我々は終えました
バビロニアの君主であり、ギリシャの良き王の物語を

2670 皆さん、王の魂を救うことを望むものは
この世をあまり信用するべきではありません
神に仕え、神によく祈るべきです
この世の力に王を任せることのないように

2671 この世の栄光を大事にしようとする者は

野の花よりもそれを大切にすべきではありません
 なぜなら人はより安全だと思うときには
 最悪の場所にそれを迷わずに捨てるからです

- 2672 大きな権力を持っていたアレクサンダーは
 海も陸も彼を抑えることができなかったのですが
 最後は一つの墓穴に入ることになりました
 それは長さ十二フィート³⁰²⁾ もありませんでした
- 2673 皆さん、このへんで皆さんとお別れしたいと思います
 私に耳を傾けてくださったことをとても感謝します
 私が何か間違ったとしたら、お許してください
 わたしには知識はあまりありません、堪えてください

- 2674 しかし私はお終いにあなたがたに頼みたい
 —わたしの仕事に報酬を頂戴したい—
 私のためにパテル・ノステル³⁰³⁾ を一度唱えてください
 あなたがたは私に利益を与え、あなたがたは何も失わないでし
 ょう

- 2675 あなたがたがもしこの書を誰が書いたか知りたいのなら
 それは良き、高潔な司祭ホアン・ロレンソです
 アストルガの生まれで、非常に能力のある方です
 審判の日に、神が私を——満足させてくださいますように
 アーメン
 本が終わったので、師に食事が出されますように

2675 再 もしあなたが誰がこの書を作成したのか知りたいのなら
それはゴンサロ・デ・ベルセオという名で呼ばれている人です
彼はマドリッドの生まれで、サン・ミリャン修道院で育てられ
ホアン・サンチェス修道院長によって公証人に任じられました

完

【注】

- 260) ギリシャ神話に出てくる想像上の動物で、ライオンの胴にワシの頭と翼を持つ
- 261) ここでも急に時代が飛んでいる
- 262) アレクサンダーとキリストを重ね合わせている
- 263) ここでも時代が飛んでいる
- 264) ここでも時代がずっと下ったFederico二世のことを言っているようである
- 265) アンティパテルの息子
- 266) 旧約聖書ヨエル書4章
- 267) 時代が飛んで、中世スペインのSantiago de Compostelaへの巡礼の話である
- 268) まだこの時代にはあぶみはなかった
- 269) 旧約聖書のバベルの塔を思わせる話であるがここでも時代が合わない
- 270) 旧約聖書のノアの洪水の話であるが、この山が何を指すのか諸説がある
- 271) 意味がはっきりしない
- 272) 頭の両側に顔を持ローマの神、enero, Januaryの語源
- 273) カトリックの聖職につけることで、ここでは
- 274) まま母ユーノはジュピターと姉妹のアルクメナの不義の子ヘラクレスを殺そうとして二匹の蛇をゆりかごに入れるが、赤子のヘラクレスがその蛇を絞め殺してしまう
- 275) ネプチューンと大地の女神の息子で巨人
- 276) ヘラクレスの柱
- 277) 時代も状況も異なる
- 278) コゴリヤは実際は高山ではない
- 279) 双子の兄弟ロムルスとレムスの神話
- 280) 伝説上の人物でティトノスとアウロラの息子、トロヤを助けるために父によって送られた
- 281) ダリウス王の友人
- 282) スペイン南部のずっと後世の都市
- 283) 極めてキリスト教的

- 284) 現在の午後三時頃
- 285) Te deum laudamus で始まるラテン語の聖歌、例によってこの時代にあるはずがない
- 286) この叙事詩の作者の個人的付け足しで、この時代スペイン人という呼称はなかった
- 287) アンティパテルの末子 Iolaus のこと
- 288) ペンタポリスは「五つの町」の意であるが色々な地方を指す
- 289) いずれも小アジアにある
- 290) アンティパテルの息子
- 291) マケドニアの將軍の息子 第 1068 連参照
- 292) 黒海沿岸の地方
- 293) 注 140 参照
- 294) 不明の人物
- 295) 実際は Phitonius に与えられた
- 296) アレクサンダーの將軍
- 297) (注 115) 参照
- 298) これも後世のキリスト教の話になっている
- 299) 天に召されたことを「喜び」と言っているのであろうか、後世のキリスト教的な考えである
- 300) これはベルシャ人の女捕虜たちの言葉か
- 301) 旧約聖書、エゼキエル書 34:4-6
- 302) 後世の単位
- 303) 後世のキリスト教的世界観から書かれている、この叙事詩が聖職者の手になるものと言われる
のもうなずける、パテル・ノステル (pater noster) はラテン語の「主の祈り」

参考図書・辞書

- Libro de Alexandre Real Academia Española Madrid 2014
- Libro de Alexandre Nueva Biblioteca de Erudición y Crítica Editorial Castalia Madrid 2007
- Libro de Alejandro Editorial Castalia Madrid 1985
- Book of Alexander Peter Such and Richard Rabone Oxbow Books Oxford 2009
- Vocabulario de Libro de Alexandre Anejos del Boletín de la Real Academia Española Madrid
1976
- アレクサンドロスの書・アポロニオの書 橋本一郎 大学書林 1991
- Diccionario Medieval Español Martín Alonso Universidad Pontificia de Salamanca 1986
- Diccionario de Castellano Antiguo Manuel Gutiérrez Tuñón Editorial Alfospolis 2002
- Tentative Dictionary of Medieval Spanish Lloyd A. Kasten and Florian J. Cody The Hispanic

Seminary of Medieval Studies New York 2001

Larousse Universal diccionario enciclopédico Librairie Larousse París 1968